

中施策評価書

作成日 平成30年 7月 26日

中施策事業名	議会広報広聴事務	部課名	議会事務局・議事課
		作成者	近藤恒明

①めざすまちの姿	26 市民にとって必要な情報が提供され、行政が取り組んでいることが市民に分かりやすい
②大施策	市民にとって必要な情報や行政の取り組みを市民に分かりやすく提供する
③中施策	市民にとって必要な情報を分かりやすく提供する
④中施策事業の対象	市内在住、在勤、在学者及び市議会議員
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	市民に議会の活動内容が伝わっている また、議会にも市民の声が伝わっていて、考える機会となっている
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・本会議及び委員会の傍聴に関すること ・議会だよりの原稿及び編集委員会に関する こと ・議会だよりの校正及び配布に関すること ・ホームページに関すること ・議 会放映に関すること

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
本会議、委員会の 傍聴者数	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	440	440	440	440	440	440
	実績値	244	184				
単位	人						
	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				平成28年度	平成29年度	平成30年度
① 総事業費 (a+b)				13, 252千円	12, 906千円	
	a 事業費合計			7, 343千円	7, 061千円	13, 370千円
	人 件 費	正規職員	人数	1 人	1 人	
			b 金額	5, 909千円	5, 845千円	
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計			5, 909千円	5, 845千円
② 補助金等 (収入)				0千円	0千円	0千円
③ コスト (①－②)				13, 252千円	12, 906千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				193 円	188 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	本会議及び委員会の傍聴者数は減少しているものの、インターネットを利用した議会中継や会議録の公開など、インターネットにて情報を収集できる環境が整いつつある。予算要求額は、緊急議会の開催等に対応できるように計上しており、適正であると判断する。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	議会運営事務の効率化のため、会議録作成支援システムを導入し、自庁での粗稿作成により委員長を支援し、本会議の期間短縮を目指す。 4 階の通信環境調査を行う。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	会議録のあり方の検討を行う。庁内会議への会議録作成支援システムの活用を行う。4 階の通信環境の改善、端末、ソフトの導入検討を行う。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	インターネットを利用した議会中継や会議録の公開で、できる限り費用を抑えたことにより、職員の手間が増え、人件費コストが増したため、日常的な事務のレベルの見直しを行っている。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成30年 7月 26日

中施策事業名	行政視察・政務活動事業	部課名	議会事務局・議事課
		作成者	近藤恒明
①めざすまちの姿	40 市長や議会、行政は、まちを良くしていくために外からの知識を吸収し、失敗を恐れず果敢にチャレンジしている		
②大施策	まちを良くしていくために情報を収集し、失敗を恐れずチャレンジする		
③中施策	常に情報を収集し、学ぶ環境をつくる		
④中施策事業の対象	市議会議員		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	議員が本市政策についての提案に資するため、先進事例を調査研究し、一般質問をしている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・政務活動費に関すること ・行政視察の受け入れに関すること ・行政視察及び合同研修会に関すること		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
議員からの施策や 条例提案件数	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	10	10	10	10	10	10
	実績値	6	8				
単位	件						
	事業実施年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				平成28年度	平成29年度	平成30年度
① 総事業費(a+b)				11,099千円	11,003千円	
	a 事業費合計			5,190千円	5,158千円	7,426千円
	人 件 費	正 規 職 員	人 数	1 人	1 人	
			b 金 額	5,909千円	5,845千円	
		非 常 勤 一 般 職 員 等 (事業費に含む)	人 数	0 人	0 人	
			金 額	0千円	0千円	
		人件費合計			5,909千円	5,845千円
② 補助金等（収入）				0千円	0千円	0千円
③ コスト（①－②）				11,099千円	11,003千円	
市民一人あたりコスト （③／市の人口（評価対象年度末時点））				161 円	160 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	先進事例を研究したことを評価することは困難であるため、議員提出議案の数を指標としている。なお、平成29年度業務改善にて、行政視察受け入れのための様式をホームページに掲載し、事務の円滑化を行った。予算要求は、条例、規則に基づき議員が調査研究を行うためのものであり、適正と判断する。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	行政視察、所管事務調査のサポートを行う。 本市議会の概要データを最新のものと更新する。 行政視察の受け入れについては、事業担当課との連携に努める。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	行政視察の受け入れについては、事業担当課との連携、役割分担を図る。 所管事務調査の目的、効果を研究する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	先進事例を研究したことを評価することは困難であるため、議員提出議案の数を指標としていることは、妥当であると判断した。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		